

病虫害発生予察 9 月月報

(生育概況及び病虫害の調査結果)

令和 7 年 9 月の気象表 (長野地方気象台発表)

官署等		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長野	本年	25.8	24.0	20.7	43.0	50.0	10.5	66.8	28.8	66.5
	平年	23.3	21.2	18.5	39.6	51.7	34.2	54.7	49.4	47.1
松本	本年	25.9	23.9	20.8	62.0	46.5	8.0	70.7	31.7	68.7
	平年	22.8	20.7	17.8	39.2	59.2	49.6	53.6	50.9	46.5
諏訪	本年	25.1	22.8	19.7	58.5	49.5	11.5	76.1	30.2	70.1
	平年	22.0	20.1	17.3	49.7	70.5	56.8	54.5	50.6	47.8
軽井沢	本年	21.9	19.7	16.2	60.0	30.5	12.0	64.5	26.1	67.0
	平年	18.9	17.0	14.2	71.1	70.2	52.3	44.8	42.8	39.0
飯田	本年	26.0	24.4	21.4	115.5	38.0	24.5	78.9	37.5	63.8
	平年	23.6	21.7	19.1	52.9	80.3	75.4	55.3	52.2	47.0

上旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多くあったが、湿った空気や前線の影響で曇りや雨となり、雷を伴った日もあった。また、期間の中頃は台風の影響で大雨となった所もあった。

中旬は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、雷を伴った日もあった。

下旬は、高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、前線や気圧の谷、湿った空気の影響で曇りや雨の日もあった。

1 水 稲

(1) 水稻の生育状況

水稻の生育概況につきましては、農業試験場ホームページ内の「生育調査」欄に掲載されている「水稻の生育状況 (令和 7 年度)」をご参照ください。
農業試験場ホームページ
(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/teirei/index.html>)

(2) 病虫害の発生状況

①いもち病

穂いもちの発病地点率は、東信地域及び北信地域では平年と比べ高く、南信地域では平年と比べ低く、中信地域ではほぼ平年並であった。

平均被害率率は、東信地域、中信地域及び北信地域ではほぼ平年並であり、南信地域では平年と比べやや低かった (第 1 表)。

第 1 表 穂いもち発生状況 (9 月上中旬調査)

地域	調査 地点数	発病地点率 (%)*		平均被害率 (%)*		被害率の発生程度別地点数 *2)				
		平年	本年	平年	本年	本年内訳				
						甚	多	中	少	無
東信	15	60.5	93.3	1.2	1.2	0	0	0	14	1
南信	13	52.4	23.1	1.5	1.1	0	0	0	3	10
中信	14	46.0	42.9	0.7	0.5	0	0	0	6	8
北信	14	39.6	85.7	0.4	0.5	0	0	0	12	2
県全体	56	49.1	62.5	1.0	0.6	0	0	0	35	21

発病地点率は巡回調査地点の中で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの
平均被害率は巡回調査地点の被害率を地域ごとに平均したもの
発病地点率の平年は 2015 年～2024 年の平均値
平均被害率の平年は 2016～2024 年の平均値
被害率の発生程度別基準は以下のとおり (農作物有害動植物発生予察事業調査実施基準)

程 度	甚	多	中	少	無
被害率 (%)	51以上	26～50	11～25	1～10	0

②紋枯病

9月上中旬の巡回調査での発病地点率は、東信地域及び北信地域では平年と比べ高く、南信地域及び中信地域では平年と比べ低かった。

平均発病株率は、東信地域及び北信地域ではほぼ平年並であり、南信地域及び中信地域では平年と比べ低かった。

③白葉枯病

9月上中旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

④稲こうじ病

9月上中旬の巡回調査での発病地点率は、東信地域では平年と比べ低く、北信地域では平年と比べやや高かった。

平均発病株率は、東信地域及び北信地域では平年と比べ低かった。なお、南信地域及び中信地域では発生はみられなかった（第2表）。

第2表 稲こうじ病の発生状況（9月上中旬調査）

地域	調査 地点数	発病地点率(%)		平均発病株率(%)	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	12.6	6.7	2.4	0.4
南信	13	13.2	0	0.9	0
中信	13	1.6	0	0.1	0
北信	14	6.6	7.1	0.3	0.1
県全体	55	8.2	3.6	0.8	0.1

発病地点率は巡回調査で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの
平均発病株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの
平年は2015年～2024年の平均値

⑤コブノメイガ

9月上中旬の巡回調査では、幼虫による被害葉はみられなかった。

⑥セジロウンカ

9月上中旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での成虫平均捕獲頭数は、一般的に平年と比べ少なかった。

⑦ツマグロヨコバイ

9月上中旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での成虫平均捕獲頭数は、南信地域では平年と比べ少なく、東信地域及び北信地域ではほぼ平年並、中信地域では平年と比べ多かった。

⑧トビイロウンカ

県下7機の予察灯では、誘殺されなかった。

また、9月上中旬の巡回調査ほのすくい取り調査（本田ネット20回振）では、捕獲されなかった。

⑨ニカメイガ（第2世代）

9月上中旬の巡回調査における白穂発生地点率は、東信地域は平年並であり、その他の地域はみられなかった。

東信地域の白穂株率は、平年並であった（第3表）。

第3表 ニカメイガによる白穂発生状況（9月上中旬調査）

地域	調査 地点数	白穂発生地点率(%)		平均白穂株率(%)	
		平年	本年	平年	本年
東信	15	20.6	20.0	2.3	2.4
南信	13	1.6	0	0.1	0
中信	13	0.6	0	0	0
北信	14	1.2	0	0.1	0
県全体	55	5.3	5.4	0.5	0.6

発病地点率は巡回調査で発生が確認された地点の割合を地域ごとに示したもの
平均白穂株率は巡回調査地点の発病株率を地域ごとに平均したもの
平年は2015年～2024年の平均値

⑩斑点米カメムシ類

9月上中旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での捕獲地点率は、一般的に平年と比べ高かった。

平均捕獲頭数は、一般的に平年と比べ多かった。

捕獲された主要種は、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシの順で多かった。なお、クモヘリカメムシは南信地域に限って捕獲された（第4表）。

第4表 すくい取り調査における斑点米カメムシ類の捕獲状況（9月上中旬）

地域	調査 地点数	捕獲地点率 (%)		平均捕獲頭数 (頭)		種別捕獲頭数合計(頭)					
		平成	令和	平成	令和	計	クモヘリ カメムシ	アカスジ カメムシ	ホソハ カメムシ	アカヒゲ ホソミドリ カメムシ	トゲシ ホソカメ ムシ類
東信	15	16.1	46.7	0.3	1.0	15	0	10	4	1	0
南信	13	34.8	61.5	2.3	8.4	109	66	15	26	2	0
中信	13	36.7	84.6	1.3	1.8	23	0	12	6	4	1
北信	14	25.7	52.9	1.0	1.3	22	0	17	2	3	0
県全体	55	29.2	60.3	1.3	2.9	169	66	54	38	10	1

調査方法は本田においてすくい取り（ネット20回振）で捕獲された斑点米カメムシ類（成虫＋幼虫）を調査

捕獲地点率（％）は調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合

平均捕獲頭数は捕獲頭数計（成虫数＋幼虫数）÷調査地点数

平成は2017年～2024年の平均値

⑪イチモンジセセリ（イネツトムシ）

9月上中旬の巡回調査による「つと」の平均確認数は、南信地域では平成と比べ多く、北信地域では平成並、東信地域及び中信地域では「つと」はみられなかった。

⑫クサキリ類

9月上中旬のすくい取り調査（本田ネット20回振）での捕獲頭数は、南信地域は平成と比べ少なかったが、東信地域及び中信地域は平成並、中信地域は平成と比べ多かった。

果樹の生育概況

令和7年産の果樹生育概況は、果樹試験場ホームページの定例調査にある「令和7年の生態調査結果」および南信農業試験場ホームページの調査速報にある「令和7年果樹生態調査」を参照ください。

果樹試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/kajushiken/chosa/teirei/index.html>)

南信農業試験場ホームページ

(<https://www.pref.nagano.lg.jp/nannoshiken/joho/sokuho/index.html>)

2 りんご

(1) 病害虫の発生状況

①褐斑病

直近の巡回調査では、北信地域で発生がみられ、発生量は平成並であった。

②斑点落葉病

直近の巡回調査では、北信地域で発生がみられ、発生量は平成並であった。

③輪紋病

直近の巡回調査では、東信及び北信地域で発生がみられ、発生量は平成並であった。

④炭疽病

直近の巡回調査では、東信及び北信地域で発生がみられ、発生量は平成並であった。

⑤キンモンホソガ

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平成と比べ少なかった（第1表）。

第1表 キンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	9月					
	1	2	3	4	5	6
半旬						
平成	473.5	611.4	497.9	514.0	481.0	348.1
前年	66	156	86	105	213	111
本年	244	203	253	327	282	133

平成は2015年から2024年までの平均値

⑥シンクイムシ類

直近の巡回調査では、果実の被害はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、9月第2半句から第5半句にかけて、平年と比べ多かった（第2表）。

須坂市（果樹試験場）のスモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、ほぼ平年並であった（第3表）。

第2表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	9月					
半句	1	2	3	4	5	6
平年	8.8	7.2	5.1	4.9	0.8	0.4
前年	15	6	4	1	1	0
本年	7	27	18	11	6	0

平年は2015年から2024年までの平均値

第3表 スモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	9月					
半句	1	2	3	4	5	6
平年	23.5	24.5	21.1	12.0	13.3	11.9
前年	63	63	57	41	21	25
本年	21	27	15	12	9	10

平年は2015年から2024年までの平均値

⑦ハダニ類

直近の巡回調査では、ほ場による差はあるものの、各地でリンゴハダニ及びナミハダニの寄生が確認され、中信地域のほ場では9月下旬まで発生が多い状況が続いた。

⑧リンゴコカクモンハマキ

直近の巡回調査では、北信地域の一部でハマキムシ類による軽い果実被害がみられた。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺は、確認されなかった（第4表）。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	9月					
半句	1	2	3	4	5	6
平年	0	0	0.1	0.2	0.3	0
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

3 な し

（1）病害虫の発生状況

①枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

②カメムシ類

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによるクサギカメムシの誘殺は、確認されなかった（第1表）。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺頭数は、平年と比べやや多かった（第1表）。

第1表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

高森町（南信農業試験場）

種類	区分	9月					
	半句	1	2	3	4	5	6
クサギカメムシ	平年	0.3	0	0.1	0.5	0.7	0.5
	前年	1	0	0	2	0	0
	本年	0	0	0	0	0	0
チャバネアオカメムシ	平年	8.1	4.5	4.5	3.6	1.3	0.8
	前年	65	38	39	33	11	3
	本年	16	2	10	4	0	1

平年は2015年から2024年までの平均値

③ナシヒメシンクイ

直近の巡回調査では、被害果はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ多かった（第2表）。

第2表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	15.4	12.2	10.3	9.8	3.8	2.8
前年	24	29	12	15.5	10.5	6
本年	26.5	42.5	24	19	10	9

平年は2015年から2024年までの平均値

④モモシンクイガ

直近の巡回調査では、果実被害はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第3表）。

第3表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.4	0.1	0.1	0	0	0
前年	1.5	0.5	0	0	0	0
本年	0	0.5	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

⑤リンゴコカクモンハマキ

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった（第4表）。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0.6	0.4	0.8	0.8	0.7	0.4
前年	0	0	0.5	0	0	0
本年	0	1	0	0	1.5	1

平年は2015年から2024年までの平均値

4 もも

（1）病害虫の発生状況

①シンクイムシ類

長野市（病害虫防除部）のモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺は、確認されなかった（第1表）。

第1表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
長野市（病害虫防除部）

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	—	—	—	—	—	—
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

2024年から調査ほ場を変更

②モモハモグリガ

直近の巡回調査では、被害葉はみられなかった。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第2表）。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
須坂市（果樹試験場）

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	122.5	261.4	105.6	103.8	73.6	38.6
前年	22	13	52	77	45	19
本年	5	4	13	14	9	15

平年は2015年から2024年までの平均値

5 ぶどう

（1）病害虫の発生状況

①晩腐病

直近の巡回調査では、発病した果房はみられなかった。

②さび病

直近の巡回調査では、北信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年並であった。

③べと病

直近の巡回調査では、北信地域の一部ほ場で新梢に多くの発生がみられた。
県下各地でも発生が確認され、発生量は平年並であった。

④灰色かび病

直近の巡回調査では、発病した果房はみられなかった。

⑤黒とう病

巡回調査地点では発生はみられなかったが、巡回調査地点外の樹では発生がみられ、発生量は平年並と推察された。

⑥クビアカスカシバ

直近の巡回調査では、主幹および主枝の被害はみられなかった。

小布施町のフェロモントラップによる誘殺は、9月はみられず、今年の成虫の飛来は終了したと考えられる（第1表）。

第1表 クビアカスカシバのフェロモントラップによる誘殺消長（頭） 小布施町

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	0	0.1	0	0	0	0
前年	0	1	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

6 か き

（1）病害虫の発生状況

①うどんこ病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

②炭疽病

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

③円星落葉病

直近の巡回調査では、発生がみられなかった。

④カキダアザミウマ

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤カキノヘタムシガ

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥ハマキムシ類

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

⑦フジコナカイガラムシ

直近の巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べ少なかった（第1表）。

第1表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）
高森町（南信農業試験場）

区分	9月					
半旬	1	2	3	4	5	6
平年	137	161	119	66.8	113	63.7
前年	778	790	194	92	22	10
本年	65	43	72	16	25	0

平年は2015年から2024年までの平均値

⑧ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

7 野菜・花き

（1）病害虫の発生状況

①トマトの病害

直近の巡回調査では、東信地域の露地栽培で輪紋病の発生、CMVの感染株、オオタバコガの被害及びハダニ類の寄生、南信地域の施設栽培でオンシツコナジラミの寄生、北信地域の施設栽培ですすかび病の発生及びオンシツコナジラミの寄生がみられた。

②きゅうりの病害

直近の巡回調査では、南信地域の施設栽培でワタヘリクロノメイガの被害がみられ、中信地域の施設栽培ではうどんこ病の発生、アザミウマ類・アブラムシ類の寄生及びワタヘリクロノメイガの被害がみられた。北信地域の施設栽培では、うどんこ病、褐斑病、べと病の発生及びオンシツコナジラミの寄生がみられ、露地栽培では、うどんこ病、褐斑病、べと病の発生、アザミウマ類及びハダニ類の寄生がみられた。

③いちごの病害虫

直近の巡回調査では、アザミウマ類の寄生がみられた。

④キャベツの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域でチョウ目害虫の被害および一部のほ場で株腐病の発生がみられ、南信地域ではウワバ類等チョウ目害虫の被害および軟腐病の発生がみられた。中信地域の一部のほ場では軟腐病の発生、コナガ・ウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられ、北信地域では株腐病、黒腐病の発生およびチョウ目害虫の被害がみられた。

⑤ブロッコリーの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域の一部のほ場でべと病、黒腐病、黒斑細菌病の発生及びコナガ等チョウ目害虫の被害がみられ、南信地域ではウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられた。

⑥はくさいの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域でチョウ目害虫の被害及び一部のほ場で白さび病、ピシウム腐敗病、べと病の発生がみられ、中信地域では軟腐病の発生がみられた。

⑦レタスの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域で斑点細菌病及び一部のほ場で、すそ枯病の発生がみられ、中信地域の一部のほ場では軟腐病の発生がみられた。

⑧セルリーの病害虫

直近の巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑨アスパラガスの病害虫

直近の巡回調査では、全調査ほ場で茎枯病の発生及びアザミウマ類の寄生がみられた。また、南信地域（雨よけ栽培）及び北信地域（露地栽培）でハダニ類の寄生がみられ、北信地域（露地栽培）では斑点病の発生がみられた。

⑩ねぎの病害虫

直近の巡回調査では、全調査ほ場（南信地域、中信地域）で黒斑病の発生、アザミウマ類、ネギハモグリバエの被害及びネギコガの寄生がみられた。また、南信地域ではチョウ目害虫の被害もみられた。

⑪ながいものアブラムシ類

直近の巡回調査では、アブラムシ類の寄生はみられなかった。

⑫きくの病害虫

直近の巡回調査では、東信地域でアブラムシ類及びハダニ類の寄生がみられた。

⑬コナガ（アブラナ科野菜）

〈フェロモントラップによる誘殺頭数〉

塩尻市、小諸市、原村、長野市では、平年と比べ少なかった。

上田市では、第1～第2半旬は平年並であったが、第3半旬以降は平年と比べやや少なかった。

朝日村では、第1～第3半旬は平年と比べて少なかったが、第4半旬は平年並、第5～第6半旬は平年と比べやや少なかった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	9月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	6.6	2.5	4.2	5.0	2.3	4.0
		本年	0	0	1	0	0	0
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	8.2	15.0	13.6	12.3	12.3	10.7
		本年	7	4	5	10	9	3
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	6.1	3.2	3.8	3.6	4.0	1.3
		本年	6	3	2	0	1	0
原村判之木 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	37.4	30.4	25.7	35.0	37.05	23.9
		本年	9	18	12	7	5	7
朝日村古見 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	22.6	10.3	12.3	8.0	8.0	9.3
		本年	12	7	5	8	7	5
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	21.7	27.0	33.0	31.3	26.8	22.2
		本年	18	15	18	12	3	5

平年は2015年から2024年までの平均値

朝日村は2019年から2024年までの平均値

⑭オオタバコガ

〈フェロモントラップによる誘殺頭数〉

塩尻市では全般的に平年と比べ少なかった。

小諸市では、第5半旬は平年と比べ少なかったが、それ以外の期間は平年と比べ多かった。

須坂市では、全般的に平年と比べ多く、特に第3半旬は平年値の約2.5倍であった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	9月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	56.7	59.8	65.7	71.6	58.1	62.3
		本年	27	45	56	23	43	40
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	44.5	53.9	65.1	66.0	78.6	61.7
		本年	92	66	84	108	65	67
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	26.7	28.1	28.7	38.8	36.6	48.0
		本年	28	42	71	67	69	70

平年は2015年から2024年までの平均値

⑮ヨトウガ類

〈ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺頭数〉

塩尻市では、第1～第2半旬は平年と比べ多かったが、第3半旬以降は平年並かやや少なかった。

須坂市では、全般的に平年と比べやや少なかった（第3表）。

〈ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数〉

塩尻市では、第4～第5半旬は平年と比べ少なかったが、それ以外の期間は平年と比べ多かった。

須坂市では、第3半旬は平年値の3倍と多かったが、その他の期間は平年並～やや少なかった。

上田市では、全般的に平年と比べ多く、特に第1半旬は平年値の約20倍であった（第4表）。

〈シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺頭数〉

塩尻市では、全般的に平年と比べ多く、9月の総誘殺頭数は平年値の約5倍であった。

長野市では、塩尻市同様、全般的に平年と比べ多く、平年値の10倍以上の半旬が多かった（第5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	9月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	25.5	23.6	21.0	21.2	17.4	11.6
		本年	28	35	12	13	12	12
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	5.0	6.3	3.4	2.4	1.7	1.6
		本年	3	2	1	2	0	0

平年は2015年から2024年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	9月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	58.6	64.7	74.4	68.6	70.3	67.2
		本年	88	71	79	64	56	73
須坂市小河原 （農業試験場）	さつまいも ・水稻	平年	104.1	173.7	120.2	127.6	199.8	160.0
		本年	94	144	395	144	166	119
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	4.7	5.9	6.7	11.4	10.6	7.5
		本年	87	64	70	55	43	63

平年は2015年から2024年までの平均値

須坂は2024年を除く10年の平均値。

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	9月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	34.7	22.7	24.0	33.1	39.8	23.4
		本年	234	155	221	103	78	68
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	1.4	1.7	2.9	3.0	2.9	0.7
		本年	34	33	40	30	27	18

平年は2015年から2024年までの平均値

長野市は2018年から2024年までの平均値

⑯ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

直近の巡回調査では、南信地域及び中信地域のねぎで寄生がみられた。

⑰アザミウマ類（ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

〈青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺頭数〉

上田市では、第3～第4半旬は平年と比べ多かったが、それ以外の期間は少なく、わずかな誘殺頭数であった。

富士見町では、平年との比較はできないが、他の調査地点に比べ全般的に誘殺頭数が多かった。

塩尻市では、全般的に平年と比べ多く、平年値の10倍を記録する半旬もあった。

長野市では、第3半旬は平年と比べ多かったが、その他の期間は平年と比べ少なかった（第6表）。

第6表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	9月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	17.6	21.0	18.1	15.3	6.0	4.0
		本年	6	9	23	17	4	0
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	96	81	225	74	133	42
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	29.4	23.3	26.0	13.6	15.0	16.0
		本年	133	138	257	77	112	81
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	79.0	83.7	45.6	58.1	74.0	26.1
		本年	44	70	122	43	20	10

平年は塩尻市では2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し

⑱アブラムシ類（野菜・花き全般）

〈黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺頭数〉

塩尻市宗賀では、第4半旬、第6半旬を除き、平年と比べ多かった。

小諸市では、9月第3半旬に発生のがみられ、全般的に平年と比べ誘殺頭数が多かった。

上田市では、全般的に平年と比べやや多かったが、わずかな誘殺頭数であった。

富士見町では、第1～第3半旬は誘殺頭数がやや多かったが、第4半旬以降は少なく推移した。

塩尻市洗馬では、全般的に平年並～平年と比べやや少なかった。長野市では、第1～第3半旬は平年と比べ誘殺頭数が多かったが、第3～第6半旬はほぼ平年並であった（第7表）。

第7表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	9月					
		半旬	1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	27.3	20.6	19.3	9.1	5.8	4.9
		本年	60	93	54	6	10	2
小諸市山浦 (野菜花き試験場 佐久支場)	レタス	平年	22.9	14.0	8.8	5.5	3.5	4.8
		本年	21	56	114	60	15	61
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	0.4	1.6	1.0	0.9	0.3	0.4
		本年	4	3	2	1	1	1
富士見町立沢 (地区発生予察ほ)	きく	平年	－	－	－	－	－	－
		本年	23	9	15	3	4	5
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	46.9	31.8	19.8	8.0	4.8	5.0
		本年	24	33	19	3	5	4
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	2.6	2.9	1.4	0.7	0.7	0.6
		本年	14	33	34	3	1	2

平年は塩尻市・小諸市は2017年から2024年までの平均値

上田市・長野市は2018年から2024年までの平均値

富士見町は調査地点変更により平年値無し